

● 広報

おくび



2 0 1 7

7

NO. 753





～火の用心～

平成29年度小国町消防演習の休憩時間に行われた、すみれ保育園鼓笛隊とカラーガードによるアトラクション。

「火の用心！」大きな声を出してカチッ！カチッ！と。拍子木の音に一番驚いていたのは消防のおじちゃんに負けないよう力強く打ち鳴らした本人でした。



ふるさと創生の総合的な舞台

次期総合センター整備基本計画を策定



国や県などの関係機関や有識者、そして多くの町民の協力によって、昭和43年に完成した「おぐに開発総合センター」は、これまで本町のまちづくりの拠点として大きな役割を担ってきました。しかし、開館後約半世紀を経過し、施設の老朽化とともに、人口減少や少子高齢化などの社会環境の変化によって、その機能に不足が生じています。このため町では、将来に向けたまちづくりの中核的施設として新たな複合的機能を有する総合施設を整備するため、次期総合センターを整備することとし「アドバイザー会議」や「おぐにの未来を考える会議」などから多様な意見を聞きながら、平成29年4月に次期総合センター整備基本計画を策定しました。今月は、この概要を紹介します。

新施設の 整備に向けて

おぐに開発総合センターは、昭和43年10月31日に本町の経済及び社会開発の拠点として誕生しました。

昭和42年9月16日の朝日新聞に「21世紀への築城」と題した社説が掲載され、本町のまちづくり構想が全国的に注目を集めました。

このおぐに開発総合センターは、都市的機能を享受できる拠点施設として、周辺地域を支える基幹施設の整備とともに重層的に位置づけられて計画された集会機能、保健福祉機能、社会教育機能などを備えた施設として、これまで町民の文化活動や社会教育活動などまちづくりの中心的役割を果たしてきました。

しかし、おぐに開発総合センターは開館から半世紀が経過し、施設の老朽化が進むと



開館当時のおぐに開発総合センター

ともに、建設当時の機能の一部が他の施設が担っていることや住民が求めている機能に変化が生じていること。

さらに、日本全体が人口減少社会となる中で、小国町の将来を見据えて持続可能な地域社会を維持・形成していくため、新たな視点から地域活性化の方向性や拠点施設の位置付け、役割を検討することが必要になってきています。

町では、こうした状況を捉え今後の本町のシンボルとして、地域づくりの中核的機能や地域創生機能を備えた複合

的な総合施設の整備に向けた基本的な考え方を整理することとしました。そこで、新しい拠点施設整備の概念や施設機能などについて専門的知見と見識を有するかたがたからご意見をいただきながら平成26年度から2年間をかけて、平成28年3月に小国町次期総合センター（以下「次期センター」という。）整備基本構想を策定しました。

ふるさと創生の

総合舞台

基本構想の策定にあたり、平成27年10月に策定した「小国町地域創生総合戦略」の住民等意識調査の中に次期センターに関する設問を掲げ、幅広い年代のニーズを調査・把握しました。

調査は、中学生以上の町民のほか、本町出身者で組織する「山形おぐに会」と「山形

県小国郷人会」の会員を合わせて計7728人を対象に実施しました。

次期センターに必要な機能として、中高生は「サークル活動や趣味が楽しめる場、喫茶や飲食などサロンスペース」が、20から40代までの世代では、「図書館や保養スペース」が、50・60代は、「保養スペース、コンサート等の集会ホール」が、70代以上は「保養スペース」がいずれも高い割合での回答となりました。また、本町出身者が求める機能としては、「外部に小国の魅力を発信する情報コーナー」が高い割合を占める結果となりました。

住民等意識調査の結果を踏まえ、総合戦略の基本方針である「山の暮らし伝承創造機構（仮称）（※）により、地域の『誇り』と『魅力』を再興し、連携と協働に基づく地域づくりを推進する」を具現化する持続可能な地域づくりの

推進拠点として整備するため、基本構想においては

「白い森の国のぶな文化を継承し、人や資源をつなぎ、育て、新たな小国を紡ぐ、ふるさと創生の総合的な舞台」を次期センター整備の基本理念として掲げました。

また、次期センターに求められる機能や役割について、本町の現状や課題、第4次総合計画や小国町地域創生総合戦略などの上位計画を整理したうえで、これまで総合センターが果たしてきた役割や次期センターに対する町民ニーズなどを反映し、次の6つを基本方針として整理しました。

- ①町民ニーズが高い生涯学習活動や芸術文化活動を支援する場づくり
- ②小国町の優れた地域文化を発掘・保全し、後世に継承していく場づくり
- ③小国町に新しい人の流れや地域内外の絆を生み出す場

※町が現在創設準備を進めているもので、町に賦存する自然資源や先人が暮らしの中で守り培ってきた歴史や生活文化、生活技術等を保存・継承しながら、それらを再度見直し、現在の地域づくりに活用することを企画・実践する仕組み

づくり

④時代に即した「なりわい」を築き、まちに一層の活力を育む場づくり

⑤全町民が誇りと自信にあふれ、地域づくりに参画できる場づくり

⑥あらゆる世代の住民が集い、憩える、やすらぎと交流の場づくり

町民検討委員会 『おぐにの未来を 考える会議』

基本構想を基に、平成28年度には、有識者からのアドバイスや町民の具体的な意見の反映を図りながら整備基本計画を策定することとしました。具体的には、アドバイザ―会議のほか町民を構成委員とする検討委員会「おぐにの未来を考える会議」を設置し、ワークショップ形式で各世代やセンター利用団体のかたが



たが考える次期センターについて意見交換を行いました。

会議には、幅広い世代の意見を計画に反映するため10代から60代までの計25人のかたがたに参加をしていただきました。また、若い世代のまちづくりへの参加を促すため、県立小国高校から推薦をしていただいた6人の生徒も参加しました。

おぐにの未来を考える会議委員



小国高校3年
井上 美空さん(綱木箱口)

現在のセンターは1階がとても暗いイメージがあります。また、階段しかないと感じています。会議に参加して、世代の違うかたと意見交換をする中で共通していることもあれば、異なることもあり、さまざまな立場からの意見を聞くことができとてもいい経験になりました。現在のセンターは、用事がなければ行かない(行けない)場所になってしまっているので、次期センターは誰でも入りやすい場所になってほしいです。また、友達など行くと、自由に話しができたり、くつろげるような場所があればいいと思います。次期センターを建て直す際には、今回の会議で発言した高校生の意見が反映されている施設だと嬉しいです。今後は、進学を希望しており小国町を一旦離れることになると思いますが、外から小国町の良さを再発見して、また小国町に帰ってきたいと思います。次期センターができたなら、同級生や友達と一緒にくつろげる場所として利用したいと考えています。

初回の会議では、小国町の良いところや困っているところについてどう考えているのか、そして小国町の将来像をどう考えているのかについて意見を出しました。各班ごとの意見では、良いところ

として「食」や「人」、「自然」などが、困っていることとして「人口減少」や「不便さ」などが出されました。

2回目の会議では、第1回を踏まえたうえで、次期センターに欲しい施設や機能を5

おぐにの未来を考える会議委員



小国高校2年
横井 健太さん(北)

現在は、テスト勉強や午前授業などの時にセンター図書室を利用しています。センターは入り口となる1階がとても暗く、全体的に暗いイメージになってしまっています。会議に参加をする前は、高校生が発言するような場所ではないと思っていましたが、私の意見も聞いてもらえ、さらに大人のかたがたが私の意見にさらなる提案を付け加えてくれて、誰か一人の意見で終わる話し合いでなく大変良かったと思っています。また、親世代のかたは、私の発言を息子の立場になって考えてくれて、私の意見にも納得してくれました。次期センターは、1日いても飽きない空間・場所になってほしいと思います。また、Wi-Fiなどのインターネット環境が整っている施設になってほしいと思います。高校生の時に、社会人のかたと町のことについて話しをする機会はめったにないことだと思うので、就職をする前にこのような経験ができ、また町のことについて考えることができてとても貴重な経験となりました。今後は、地域行事などまちづくりに積極的に参加したいです。

班に分かれて提案してもらいました。そして、その提案を委員全員が最も欲しい施設や機能について投票をして、必要な機能等についての検討を行いました。

各班から提案のあった機

能の中で、「子どもの遊び場」や「くつろげる場所」、「カフェスペース」、「入浴施設」などが多くの委員から支持されていた。

3回目の会議では、望ましい町の将来像に向けて、提案

した施設や機能が備わった場合にどのような利用をしてみたいか、または望ましいかといったことを各班に分かれて

話し合い、発表を行いました。提案のあった主な施設や機能ごとの利用ニーズは次のとおりでした。

「おぐにの未来を考える会議」での提案

【ホール】 発表会やコンサートのほか、パーティ、イベント会場としての利用など広い空間を活かした集会施設としてのニーズがあるほか、町外の人が発表や鑑賞で来訪されることも期待

型「町民広場」として期待

【キッズスペース】 遊具を備えた遊び場の提供のほか、サポート人材による紙芝居や読み聞かせなど親子が楽しめるイベント企画などに期待

【研修室】 各種サークル活動や音楽練習のほか、「はけご」や「つる細工」など伝統工芸の創作や体験ができるマルチスペースとしての活用を期待

【図書室】 インターネット環境を前提に青年層の調べものとしての活用や中高生の学習スペース、誰でも気兼ねなく読書が楽しめる環境などに期待

【ロビー・カフェ】 最も意見が多かったスペースで、キッズスペースと連動した子どもの見守り空間としての活用や町内外の来訪者の交流や憩いの場としての機能、趣味を楽しむ場としての機能など屋内

【ギャラリー】 高校生や町民の創作発表の場として期待

【その他】 屋外スペースの活用や料理体験ができる場としての活用などの意見

次期センターの 施設と機能

整備基本計画では、次の主要機能を備えた複合施設として、それぞれの機能効果を相乗的に発揮しながら、基本理念に掲げた本町の新しい地域像を形成していくことを目指します。



①人口減少社会に向けた交流や移住・定住等の促進機能
地域内の人財交流や育成を活性化するとともに、ＵＩターン者など外部からの移住・交流に係る相談窓口機能や各地区との情報交換・取次機能、移住・定住に係るコーディネート機能を発揮し、多様な人財が活発に交流する拠点機能を確保します。

②既存産業の高度化や新たな地域ビジネス等の創造機能
各種研修機能やコミュニティビジネスを支援していく機能、起業・創業に向けたチャレンジオフィスや実験研究所など、新たな産業創成を支援するスペースや機能を持たせるとともに、まちの特産品や工業技術製品等の紹介機能を確保します。

③コミュニティ活動等を通じて地域人財の育成や交流に係る機能

町民が積極的に地域づくりに参画できる機会の場づくりを支援するとともに、多彩なサークル活動や子どもが冬の間でも遊べるスペース、町民が気軽に集い憩える場づくりなど、地域住民のコミュニティ

ティ育成や交流の促進につながる機能を確保します。

④地域文化の継承や創造、芸術文化の享受機能
町民ニーズの高い図書閲覧機能や研修室などの生涯学

茶道教室などで3階の茶室を月3～4回程度利用しています。町民の方々の高齢化が進み、私自身3階までの階段の上り下りに苦労しています。また、茶道で使用する道具は、大きいものや重いものがあるため運搬にも苦労しています。こうした状況からも、次期センターには高齢者や体が不自由な方が自由に階を移動できるようにエレベーターを設けていただきたいと思います。町内には江戸千家のほか、裏千家、宗徧流という茶道教室があります。お茶は日本の文化であり、先人たちが広めてくれた文化を途絶えさせることのないように、ぜひ若い人たちへ伝えていきたいと思っています。現在のセンターにも茶室がありますが、次期センターにも同様の部屋を設けていただき、私たちの稽古だけでなく、敬老の日などにお年寄りのかたを招待してお茶を提供するなどのボランティアなどにも活用していきたいです。次期センターは、子どもからお年寄りまで様々な世代の人が使えて、気軽に行けるような場所であってほしいです。会議では若い人が一生懸命に町のことについて考える姿が印象的でした。そうした人がたくさんいる、明るい小国町になってほしいと感じました。



江戸千家不白会小国教室
舟山 恵美子さん(越中里)

おぐにの未来を考える会議委員

おぐにの未来を考える会議委員



自営業
渡邊 重信さん(緑町)

町中心部には公民館がないため、公民館活動そのものもありません。次期総合センターには、そうした機能や町民が文化活動を活発に行える場所を備えるなど、将来の小国町の地域づくりの拠点となる施設整備に参画しようと思い委員になりました。現在はPTAなど会議でのセンター利用が主となっています。私が小さい時には、センターにはご飯が食べるところがあり、外にはプール、公園もあったため1日中過ごせる場所でたまり場になっていました。また、先輩が結婚式を行った場所でもあるため思い出に残っている場所です。次期センター

には、学び・体験ができ、年代を問わずに誰でも気軽に入れる・集まれる、くつろぎや交流の場所になってほしいと思っています。また、町民だけでなく飯豊町や関川村など町外の人が小国町を知れて、小国っていいねと思ってもらえるような空間であってほしいです。会議では、若い人たちが現在外に求めてしまっている機能やアイデアを強く要望し、提案している姿がありました。用途を決めて整備するのではなく、ルールはあってもさまざまな使い方の可能性が持てる施設になってほしいと思います。

習を支える機能をはじめ町民ホールとしての芸術文化の鑑賞や発表等の機会を提供するホール機能、小国の自然や地域文化等を紹介・展示する機能や貴重な地域文化を後世に

継承していく活動の場を確保します。

《付帯機能》

地域住民の保健機能

防災・減災機能

自然エネルギー活用機能

その他必要な生活サービス提供機能

こうした機能を果たしていくための施設の基本的な構成として、ホール、研修、図書、管理運営の4つの施設群から構成し、共用スペースとして町民ギャラリー、カフェ・滞留スペース、キッズスペースなどの設置を示しています。

また、次期センターの建設候補地は、これまでの総合センターが果たしてきた役割の継続性や敷地の規模、形状、交通・周辺環境、用地取得の容易性、防災・災害対策等を総合的に勘案し、現在の総合センターの建替え跡地またはその周辺としています。

次期センターの整備に向けた今後の予定として、今年度(平成29年度)は基本設計を行い、平成30年度には実施設計を取りまとめた上で、平成31年度からの建設工事を目指すこととしています。

より良い施設を
創るために

今年度は、おぐにの未来を考える会議等での提案を受けて作成した整備基本計画に基づき、次期センター施設内外の具体的な配置などの基本設計を実施します。基本設計の段階においても、町民の意見を施設整備へと反映するため、町民のかたがたの参画をいただきながら検討委員会の開催を予定しています。

昭和の高度経済成長期に過疎化にあえぐ山村地域の地域開発のモデルとして21世紀への築城と称され、全国から注目を集めた現おぐに開発総合センター。その後継施設である次期センターを今後の小国町のまちづくりのシンボルとして整備するため、今後とも町民との協働・連携を強化しながら具体的に整備に向けて検討を進めていきます。



1年の安全を祈って ～第24回朝日連峰山開き～

第24回朝日連峰山開きが、6月2日、3日に開催されました。

2日には、地元関係者や登山者など約30人が出席し、徳網の山の神に登山シーズン中の無事故を祈願しました。

3日には、県内外からの登山者40人が4つのコースに分かれ、朝日連峰登山を楽しみました。



荒天の中、はつらっプレー ～小国がんばれソフトボール大会～



第6回小国がんばれソフトボール大会が6月3日にクアーズテック野球場で行われ、町内企業6社から約120人が参加しました。

3チームずつのリーグ戦で行われ、選手は同僚からの声援を受け、白熱した試合を展開したものの、降雨のため途中から体育館に移動し、ドッジビーで最終順位を決めました。

結果は、日本重化学工業(株)小国事業所チームの3連覇となりました。

アメリカコロラド州から2人の留学生 ～小国高校で短期留学受入～



県立小国高等学校(柿崎悦子校長)では、6月7日から27日まで、アメリカから2人の留学生を受け入れました。

来校したのは、コロラド州デンバーのイースト高校のハリー・テリーさん(上写真右)とナンシー・チェルドンさん(同左)です。

6月7日に行われた歓迎レセプションでは、2人が日本語で自己紹介をし、生徒会長の笠原一希さんが英語で歓迎のあいさつをしました。

期間中、小国高校の生徒の家にホームステイしながら通学し、通常の授業のほか体育祭やそば打ち、座禅などを体験しました。

6月19日には、茶道体験が行われ、2人は「お茶がとてもおいしく、かっこいい体験ができました。このお茶会の素晴らしさをアメリカで伝えたい。」と話してくれました。

オリジナルの陶器を制作 ～まご楽校開校～

おぐに放課後子ども教室「まご楽校」が、6月1日に旧北部小中学校で開催され、小学生やまご支援隊など約50人が参加しました。

この日は、白い陶器に自分で選んだ柄の転写紙を貼り付けて、オリジナルの皿やカップを作るポーセラーツを体験しました。子どもたちは、世界にひとつだけの個性あふれるデザインの食器を製作しました。



自然の生態系を調査 ～ブナの森いきもの探検隊～



自然散策や生態系調査を行うブナの森いきもの探検隊が6月17日、飯豊山荘周辺で行われ、親子連れなど34人が参加しました。

この日は、温身平セラピーロードを散策し、森の巨人たち100選の「飯豊山のヤチダモ」の太さを計測したほか、温身の池周辺でモリアオガエルやクロサンショウオなどの卵の調査を行いました。参加者は、小さな卵を一つ一つ丁寧に数えたり、木に登ったりしながら自然を満喫していました。



地域おこし協力隊

のぐち たつひこ
野口 達光



「小国町、再上陸」

5月に2カ月ぶりに小国に戻ってきました！緑のふるさと協力隊改め地域おこし協力隊の野口達光です。昨年までは農山村での暮らしを経験するということで様々なカタチで、小国町の皆さんにお世話になりました。今年からは、北部地区の旧あさひ保育園に「北部地区振興事務所」が開所され、この事務所を拠点として地域課題の発見や、北部地区振興協議会の補助といった昨年よりも具体的な活動を行っていきます。

着任をしたのは5月1日。ちょうど山菜のハイシーズンに入った時期でした。昨年はこの時期は緊張しながら目まぐるしく時が過ぎていき、ワラビ野でしかワラビ採りができませんでしたが、今年は山に入ってからワラビ採りに連れて行って頂けました。急斜面に力強く生えるワラビは太く、良い場所を見つけると夢中になって採っている自分がいました。

そして今年は長沢地区の皆さんのご厚意で、公民館の畑を貸して頂き、豆を播きました。うまいけば、今年の「北部ん家」では枝豆が食べられるかもしれませんよ！

羽越水害から50年

災害の爪痕をたどって

その③

▲壊滅したJR米坂線大石橋りょう（山形新聞社提供）

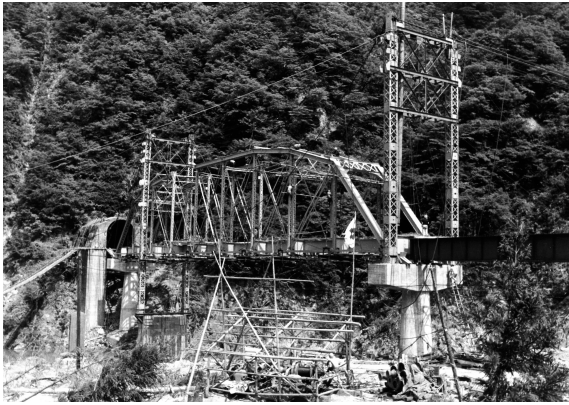


JR（旧国鉄）米坂線は横川、荒川を縫うように線路が続いているため鉄橋の被害が大きくなりました。坂町駅から伊佐領駅までの鉄橋29橋のうち、被害を受けたのは12橋、そのうち7橋は小国町管内でした。米坂線の小国町管内の被害額は、鉄橋が5億8257万1千円、線路が3億5946万7千円、駅関係が3518万6千円に上っています。

記録によると当時の国鉄では、米沢方面から小国までを「降雪前に復旧させる」と宣言して工事にあたり、その宣言通り昭和42年11月25日に小国駅まで開通させました。また、坂町方面は昭和43年1月1日に玉川口までを開通させ、さらに玉川口小国間は、冬季間も除雪しながら復旧作業が続けられ、昭和43年6月28日に米坂線が全線復旧しました。

当時の小国保線支区長が「おおみず」に寄せた手記には、「一時は放棄されるか、また3年はかかる（全線復旧まで）であろうといわれた米坂線も地域住民の絶大なる熱意に国鉄が総力を上げてこれにこたえた結果であって、冬をはさんで10カ月で全線開通させることができたのは驚きである。」と綴っています。

米坂線全線復旧への歩み



▲玉川第4鉄橋復旧工事



▲減水した駅構内（故五十嵐文治氏提供）



▲水沢鉄橋の試運転



▲昼夜を問わず作業した工事関係者



▲米坂線の全線復旧開通は、町民はもちろん、沿線町村の重大な関心事であり、当時資材の搬入搬出に利用していた東芝合金鉄、東芝電興の両会社としても1日も早くその復旧を望んでいた。

平成29年第4回 小国町議会定例会

平成29年第4回小国町議会定例会が6月6日から9日まで開催されました。平成29年度一般会計補正予算など16議案が審議され、原案のとおり可決されました。主な内容は次のとおりです。

一般会計予算を

203万8千円減額

一般会計では、地方創生人材支援制度を活用した国からの派遣職員の受け入れや年度当初の人事異動に伴い、職員の人件費の追加及び組み替えを行ったほか、今冬の降雪及び4月19日に発生した強風による農業施設被害への支援、民間事業者等が進める6次産業化への取り組みや畜産施設及び特用林産物生産施設等の整備に対する助成、観光施設及び体育施設の修繕、社会資本整備総合交付金の内示額に伴う事業の見直しなど、合せ

て203万8千円を減額することとし、補正後の予算総額は59億3196万2千円となりました。

■地域おこし協力隊員を2名採用し、活動を展開していますが、地域活力の向上や地域活性化に向け、今後地域おこし協力隊を募集することとし、所要額を追加しました。

■役場庁舎内の時計及びカリヨンタワーの時計に不具合が生じていることから、これを修繕することとしたほか、町営バスの修繕が続き、既決の予算に不足が生じる見込みであることから所要額を追加しました。

■本町の畜産団体において、飼料用米の自家加工、自家消費におけるコスト削減と飼料用米の取り組み拡大を図るため、飼料用米粉砕機等を整備する計画であるこ

とから、山形県の畜産生産拡大支援事業を活用して支援することとし、所要額を追加しました。

■国の社会資本整備総合交付金の内示額に基づき、舟渡上平線舗装補修工事の延長を見直すとともに、除雪機械の更新を見送ることとし、所要額を減額しました。これに伴い、現有する除雪機械を修繕して使用することとし、所要の修繕費等を追加しました。

■老朽化が進む町営住宅幸町団地について、2戸1棟が空室となったため、解体することとし、所要の経費を追加しました。

■スポーツを通じた多面的な文化交流等を目的に、7月にアメリカコロラド州の柔道のスポーツ団体が来町し、その受入プログラム等が確定したこと、交流事業に要する経費を追加しました。

■南東北インターハイの女子ソフトボール競技の宿舎となつている白い森スポーツ

交流センター「アスネット」の客室エアコン1台が経年劣化等により不具合が生じていることから修繕経費を追加したほか、町民総合体育館の雨漏り対策の経費を追加しました。

小国町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

国の地方創生人材育成支援制度による国家公務員の派遣を受け、8月1日から「白い森みらい創生監」の職を設置することとしたため、関連する条例において所要の改正を行いました。

■「白い森みらい創生監」は、「白い森まるごとブランド構想」を戦略的に推進するため、総務企画課の移住定住促進室及び産業振興課の白い森ブランド戦略室を有機的に結び付けながら、特定事務を掌理するとともに、政策指向的に事業を展開し、あわせて所属職員を指揮監督するものとした。



山形県森林（もり）ノ整備事業協同組合理事長を務める（株）旭林業代表取締役の横山利幸さんに、林野庁長官から感謝状が授与されました。

横山さんは、平成19年から山形県森林ノ整備事業協同組合理事長を務め、地域林業の発展に貢献されました。また、全国素材生産業協同組合連合会の理事として、素材生産事業の発展にも尽力され、この功績がたたえられたものです。

横山利幸さん（杉沢）
林野庁長官から感謝状

小国町消防演習が6月4日、多目的屋内運動場あいべやアスモ周辺で開催されました。演習には伊藤孝太郎団長以下220人の団員とクアーズテック（株）特設自衛消防隊10人が参加しました。

練や西置賜行政組合消防署小国分署員による救助訓練、団員と消防車両による分列行進が行われました。休憩時間には、すみれ保育園の鼓笛隊とカラーガードによるアトラクションが行われ、演習に花を添えてくれました。

小国町消防演習



入札結果情報（平成29年5月21日～平成29年6月20日実施）

単位(円)

入札日	工 事 名	施行場所	工期（完了）	予定価格	落札業者	落札価格
H29.5.22	平成29年度小国町水道事業針生配水池施設築造工事	小渡	H30.3.2	278,271,000	(株)フソウ東北支店	274,000,000
H29.5.29	平成29年度小国町水道事業針生配水池送配水管布設工事	小渡	H30.1.31	118,407,000	山和建設(株)	110,000,000
H29.5.29	平成29年度小国町水道事業針生配水池施設電気設備工事	小渡	H30.3.2	64,738,000	(株)フソウ東北支店	64,000,000
H29.6.5	平成29年度小国町公共下水道事業污水管（第1工区）布設工事	兵庫館	H29.9.29	19,912,000	遠藤建設(株)	19,000,000
H29.6.12	平成29年度小国町都市計画図作成業務委託	小国町中心部（都市計画区域）	H30.2.28	7,140,000	国際航業(株)山形営業所	7,000,000

※入札結果情報の金額は消費税及び地方消費税を含みません。

平成30年度採用 小国町職員募集

■職種と募集人員

- ①上級行政（大卒程度） 若干名
- ②上級土木（大卒程度） 若干名
- ③初級行政（高卒程度） 若干名
- ④初級土木（高卒程度） 若干名
- ⑤看護師 若干名
- ⑥保育士 1人
- ⑦技術員（自動車運転手） 1人
- ⑧移住枠（初級行政・初級土木・保育士） 各1人

■受験資格

- ①②昭和62年4月2日から平成8年4月1日までに生まれたかた（平成30年3月大学卒業見込みのかたを含む）
- ③④平成4年4月2日から平成12年4月1日までに生まれたかた（平成30年3月高校卒業見込みのかたを含む）
- ⑤昭和52年4月2日以降に生まれたかた（看護師資格取得者、本年度取得見込みのかたを含む）
- ⑥平成4年4月2日以降に生まれたかた（保育士資格取得者、本年度取得見込みのかたを含む）
- ⑦昭和62年4月2日から平成12年4月1日までに生まれたかた（平成30年3月高校卒業見込みのかたを含む）
- ⑧昭和47年4月2日から平成4年

4月1日までに生まれたかたで、現在小国町に住所がなく、本採用の決定に伴い小国町に移住することができるかた

※初級土木は、土木工事に関する設計、管理の実務経験があるかた

※保育士は保育士資格を有し、保育業務の実務経験があるかた

■試験日及び会場

- ▽1次試験 9月17日(日)
長井市立長井南中学校
- ▽2次試験 10月中旬～下旬
小国町役場（予定）

■試験内容

- ▽1次試験
 - ①③⑦⑧教養試験、職場適応性検査、作文試験
 - ②④⑥教養試験、専門試験、職場適応性検査、作文試験
- ⑤職場適応性検査、作文試験
- ▽2次試験 面接試験（第1次試験合格者対象）

■受付期間

7月10日(月)～8月7日(月)

■その他

申込書の請求方法や提出書類など、詳しくは担当までお問い合わせください。

■問合先

総務企画課行政管理担当（☎62・2112）へ

■届出・申請・問合先

産業振興課商工労政担当（☎62-2416）へ

移住定住・雇用促進に向けて

人口減少、少子高齢化が進行する中、町内では有効求人倍率が上昇するなど雇用状況が回復してきており、企業等では働き手不足が生じている状況にあります。こうした状況を踏まえ、移住定住を促進しながら労働力を確保し町全体を活性化するため、今年度町では移住定住促進に向けたさまざまな施策の展開を図っています。その一環として、町内企業等へ就職したかたや町外のかたを採用した企業等に支援することといたしました。該当するかた・企業等は届出・申請をしてください。

なお、詳細は町ホームページにも掲載しています。

【新卒者就職祝金交付事業】

今年度から町内企業等で働き始めた新卒者を対象に就職祝金を交付します。該当になるかたを雇用した企業は、期限までに届出をしてください。

■対象者 町内企業等に就職し、町内に居住する新卒者

■交付額 1人あたり3万円

■届出方法 新卒者を雇用した企業等は、届出書に添付書類を添えて産業振興課に届出をしてください。

■添付書類 雇用が確認できる書類（雇用保険被保険者資格取得通知書等）新卒者であることが確認できる書類（内定通知書の写し等）

■受付期間 7月7日(金)まで

【地域企業等人材確保支援事業】

町内企業等が町外から転入したかたを新規雇用した場合に、企業等に補助金を交付します。該当になるかたを雇用している企業等は申請をしてください。なお、申請は随時受付しています。

■対象者 転入者を雇用した企業等

■支給額 1人あたり5万円または7万円

■申請方法 転入者を雇用した企業等は、申請書に添付書類を添えて産業振興課に申請をしてください。

■添付書類 新規雇用者の雇用保険被保険者資格取得通知書の写し等

白い森まるごとブランドプロジェクトメンバー募集中



町では、自然・農林水産物などの地域資源や子育て・防災といった暮らしやすさを含めて町全体をブランド化し、小国町の認知度向上と地域経済の発展を目指した白い森まるごとブランド構想を進めています。

そこで、さまざまな立場や視点からアイデアを出していただき、一緒にプロジェクトを進めてくれるメンバーを募集します。

小国町をこんな風にしたい！小国町で叶えたい夢がある！という皆さん、ぜひ一緒に白い森ブランドをつくりあげてみませんか。

- 応募資格 小国町在住で白い森まるごとブランド構想に関心のあるかた（高校生以上）
- 募集人数 15人程度
- 活動内容 月1回程度のプロジェクト会議において、ブランド展開に向けたワークショップ等を行います。（※第1回会議 8月2日(水)18:00～（予定））
- 応募方法 町ホームページ専用応募フォームよりご応募ください。
電話・FAXでも受付しています。
- 申込期限 7月10日(月)まで
- 申込・問合せ先 産業振興課白い森ブランド戦略室（☎62-2416／FAX62-5464）へ

白い森の国おぐに 域学連携リサーチセンター設立

白い森の国おぐに域学連携リサーチセンターの設立セレモニーが6月1日、役場大会議室で行われました。

小国町と早稲田大学は、平成25年度から連携して「地域資源域学連携事業」に取り組み、学生による地域の課題発見と解決策の提案を行ってきました。また、平成27年度からは、再生可能エネルギー調査や各施設の省エネ調査を共同で実施し、具体的な地域の課題解決方法を探ってきました。

こうした背景を踏まえ、町と早稲田大学環境総合研究センターが、両者の資源やノウハウを活用して共同でまちづくりに関する研究を進めるため「白い森の国おぐに域学連携リサーチセンター」を開設したものです。

リサーチセンターでは、早稲田大学環境総合研究センターの勝田正文所長をセンター長とし、同大学や町の職員を研究員として地域資源の新たな活用や再生可能エネルギーなどの研究を展開することとしています。



募集

町営住宅入居者募集

《町営住宅小坂町団地》

3DK 2戸(2・3階)

■家賃 所得と家族構成による
■その他 所得制限あり

《町営住宅あけぼの団地》

2DK 1戸(1階)

■家賃 所得と家族構成による
■その他 所得制限あり

《あけぼの高齢者団地》

1LDK 1戸(1階)

■家賃 所得と家族構成による
■対象

▽世帯所得が21万4千円以下

▽住宅に困っているかた

▽60歳以上のかたで自立した

生活をおくることができ同居の場合

は同居するかたが配偶者または60歳以上の親族であること

《小坂町勤労者住宅》

2DK 1戸(1階)

2K 1戸(3階)
■家賃 38000円(2DK)
33000円(2K)

■対象

町内事業所にお勤めのかた

■敷金 家賃の3カ月分

■募集期限 7月10日(月)

■入居時期 7月下旬以降

■問合せ先

地域整備課建設管理室

(☎62・2431)へ

ご案内

「(仮称)道の駅よねざわ」

農産物等直売所出荷者

登録手続き説明会

平成30年度春オープン予定

の「(仮称)道の駅よねざわ」

内農産物等直売所について、

出荷に関する規約や出荷者登

録手続きの詳細を説明しま

す。農産物の出荷を希望する

かたは、ぜひお越しください。

■日時 7月13日(木)

午後6時30分から

■場所 すこやかセンター

2階大会議室(米沢市)

■内容 出荷規約、組合規約
及び出荷者登録手続きにつ

いて

■申込期限 7月12日(水)

■申込・問合せ先

米沢市農林課農政担当(☎

0238・22・5111)へ

弁護士によるB型肝炎

特措法無料相談会

《山形市会場》

■日時 8月19日(土)13時30分

～16時(受付15時まで)

■場所

県生涯学習センター遊学館

《米沢市会場》

■日時 9月9日(土)13時30分

～16時(受付15時まで)

■場所

置賜総合文化センター

■内容 集団予防接種でB型

肝炎になった人とその家族

を対象とした弁護士による

相談会

■その他 事前申込み優先、

当日会場での申込可

■問合せ先 全国B型肝炎訴

訟新潟事務所(☎025・

223・1130)へ

クマ駅長です！なのに名前がありません… 私の名前、募集します！

私はJR小国駅舎にいそろうしているクマです。この度、クマ駅長として小国町を訪れるお客様をお迎えすることになりました。そこで無名の私に名前を授けてください。

■応募方法 次の必要事項をメールまたは郵送、ファックスにて小国町観光協会までご応募ください。

■必要事項 ①クマの名前「クマ駅長〇〇〇〇」②理由③申込者氏名④申込者年齢⑤住所⑥電話番号⑦メールアドレス(任意)

■応募期限 7月18日(火)

■申込・問合せ先 小国町観光協会(☎62-2416/FAX62-5464/Email: info@ogunikankou.jp)へ



7月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 7月21日(金)
- ・受付時間 13:10~13:20
- ・対 象 平成29年3月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 7月21日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成28年7月生まれ

■3歳児健診

- ・期 日 7月7日(金)
- ・受付時間 12:30~13:00
- ・対 象 平成25年11月、12月、平成26年1月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合先 健康管理センター (61-1000) へ

子育て支援センターから

■7月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月~金	9:30~11:30・13:00~15:30 (水・金は午後のみ)	不要
子育て講座	7月4日(火)	「絵画製作」・子育て支援センター	不要
	7月13日(木)	「エアロビクス」・おぐに開発総合センター	不要

■対象者 なかよし広場・子育て講座 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

7月2日(日)	米沢 仁科歯科医院	0238-21-5838
7月9日(日)	南陽 斎藤歯科医院(宮内)	0238-47-3309
7月16日(日)	高畠 桜井歯科医院糠野目診療所	0238-57-3211
7月17日(月)	長井 鈴木歯科医院	0238-84-6616
7月23日(日)	米沢 あさひ歯科医院	0238-24-0118
7月30日(日)	米沢 林歯科医院	0238-22-8148

求 人 情 報

右の表は6月20日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。

求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

今月の納税 2017.7

7月の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

●7月26日(水) 水道料

●7月31日(月)

固定資産税、国民健康保険税・後期高齢者医療保険料、介護保険料、下水道料、簡易下水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合先

町民税務課税政管理室
(62-2403) へ

事業所名	職 種	求人数	勤 務 時 間
UT エイム(株)新潟オフィス	(派) 半導体用治具の製造作業	3人	8:20~16:50 他
日本重化学工業(株)酒田事業所	製造及び工務作業【正社員】	10人	8:25~16:30 他
日清医療食品(株)仙台支店	(請) 栄養士	1人	9:00~18:00
	(請) 栄養士	1人	9:00~18:00 他
	(請) 調理員	1人	5:30~14:30 他
	(請) 調理師	1人	5:30~14:30 他
田中クリニック	医療事務	1人	8:45~17:45 他
	看護師(正・准)	1人	9:00~17:00
小国町介護老人保健施設温身の郷	介護員【年度更新】	1人	8:30~17:00
大和建設運輸(株)	大型トラック運転手	1人	8:00~17:00
	土木施工管理技士	1人	8:00~17:00
(有)横川自動車整備工場	自動車整備工	1人	8:30~17:30
荒川興業(株)	製造加工	2人	8:30~17:05
山和建設(株)	一級土木施工管理技士・一級建築施工管理技士【本社】	3人	8:00~17:00
	ガソリンスタンド業務【急募】	1人	7:00~17:00 他
アクサ生命保険(株)長井営業所	商工会議所・商工会共済・福祉制度推進スタッフ	2人	9:15~17:00
長谷川工業(株)	マシニングオペレーター	2人	8:30~17:00 他
カインドネス(有)おぐに調剤薬局	薬剤師	1人	9:00~18:00
味処 藤よし	調理補助及び接客係	1人	17:00~21:00
	【急募】	1人	9:00~14:00
(株)金十商店	(臨) 青果担当	1人	6:00~19:30 の間の5時間(程度)
	(臨) 精肉担当	1人	
	(臨) 鮮魚担当	1人	
	(臨) 惣菜担当	1人	
	(臨) 配達担当	1人	
	(臨) レジ業務	1人	
水源の郷交流館ほたる	厨房補助	1人	10:00~14:00

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人掲載しています。

※町ホームページに求人情報を掲載しています。

白い森おぐに湖体験

- 日 時 8月6日(日)9:00～
 ※イベントは10:00頃から
- 場 所 水源の郷交流館（開会式）
- 内 容 横川ダム周辺を会場に、パークゴルフ体験教室、カヌー教室、クライミングウォール体験、木工クラフト体験、ツリーイング体験、横川ダムと発電所見学、釣り堀体験などを予定しています。
- 問合せ先 羽越河川国道事務所横川ダム管理支所（☎65-2363）または役場総務企画課（☎62-2264）へ

中学生農林業体験教室 参加者募集

- 日 時 8月8日(火)10:10～15:50
- 場 所 県立農林大学校（新庄市）
- 対 象 県内中学生 約10人（保護者同伴参加可）
- 参加費 500円
- 内 容 農林業体験（果物・野菜の収穫、加工等）
- 申 込 8月1日(火)までに、参加申込用紙を郵送、ファックスまたは、ホームページから申込み。
- 申込・問合せ先 県立農林大学校（0233-22-1527）へ

～夏休み おやこの食育教室～

- 日 時 7月29日(土)10:00～13:00
- 場 所 町健康管理センター 森のホール
- 対 象 保育園年長児から小学生とその保護者（友達、兄妹などで小学生のみの参加可）
- 持ち物 エプロン、三角巾、内履き
- 参加費 無料
- 申込期限 7月20日(木)正午まで
- 申込・問合せ先 健康福祉課（61-1000）へ

総合センター図書室から

～新着図書～

休館日 毎週月曜日・祝日

- | | |
|----------------------|-------|
| ◇桜風堂ものがたり | 村山 早紀 |
| ◇いのちの車窓から | 星野 源 |
| ◇大人の流儀 7 | 伊集院 静 |
| ◇騎士団長殺し | 村上 春樹 |
| ◇青少年読書感想文全国コンクール課題図書 | |

相 談

▽人権相談

- 日 時 7月19日(水)
 10:00～12:00
- 場 所 アスモ街なかギャラリー
- 対応者 町人権擁護委員
- 問合せ先 町民税務課住民窓口担当へ

▽消費者相談

- 日 時 7月22日(土)
 10:00～12:00
- 場 所 役場
- 対応者 司法書士 舟山健蔵氏
- 申込み 事前に申込みが必要です
- 申込・問合せ先 町民税務課町民生活担当へ

▽行政相談

- 日 時 8月5日(土)
 10:00～12:00
- 場 所 役場
- 対応者 行政相談委員 齋藤恒助氏
- 問合せ先 町民税務課町民生活担当へ

特定非営利活動法人 With 優 出張相談会

- 日 時 7月18日(火)10:00～14:00
- 場 所 おぐに開発総合センター 研修室
- 内 容 不登校やひきこもり等の相談会。専門の相談員が学校や就労のことについて、本人やご家族からの相談に対応します。無料の相談会ですが、基本的に予約優先となります。お気軽にお問い合わせください。
- 問合せ先 NPO法人 With 優 安達まで（☎0238-33-9137）



●小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
 ●行政管理室・情報危機管理室 ☎62-2112 ●企画財政室・移住定住促進室 ☎62-2264
 ●住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260 ●国保医療担当 ☎62-2261 ●税政管理室 ☎62-2403
 ●商工観光室・白い森ブランド戦略室 ☎62-2416 ●農林振興室 ☎62-2408 ●会計室 ☎62-2406
 ●建設管理室 ☎62-2431 ●建設技術室 ☎62-2432 ●議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(5月届出分)

誕生おめでとうございます。

兵庫 舘 五十嵐 稀 子 (大梨 二絵)

岩井 沢 古川 凌 (孝沙 綾香)

小国 町 前田 直 希 (弥 功生)

岩井 沢 佐藤 義 昭 (大京 輔子)

結婚おめでとうございます。

(針 生 沼 澤 強 太
新潟 県 池 田 早 織)

(小 渡 玉 垣 智 裕
東 原 加 藤 麻 梨子)

おくやみ申し上げます。

緑 町 佐藤 か ん (93)

あけぼの 本 間 昇 (70)

小国小坂町 阿 部 正 吾 (86)

沼 沢 井 上 ヨ シ (92)

兵庫 舘 渡 部 堅 一 (89)

今 市 伊 藤 要 (90)

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (平成29年5月31日現在)

人口 男・・・3,891人(一 5)

女・・・3,980人(一 2)

計・・・7,871人(一 7)

世帯数 3,097世帯(+ 1)

編集後記

気象庁によると今年より9日遅く、6月21日に東北南部も梅雨入りしました。これから徐々に気温・湿度が高くなりジメジメした日が続きますが、体調を崩さないように生活をしたいものです。
 役場町民広場ののぼり旗が変わったことはご存知でしょうか。白い森のロゴマークと町内の風景が入ったものになっており、とてもおしゃれなのぼり旗になっています。今後様々な場面で見られるかと思いますが、ぜひご覧ください。(斎藤)

7月の あいイベント 夏休みこども祭り スポーツとそうめん流し

- 日 時 7月28日(金) 16:00～
- 対象者 小学生と希望する保護者
- 持ち物 室内シューズ、飲み物等
- 参加費 小学生300円、保護者500円
- 申込締切 7月25日(火)



運動習慣推進事業「アクアビクス教室」

- 日 時 7月4日・11日(火) 19:00～
- 場 所 小国町温水プール「ゆ～ゆ」
- 対象者 高校生以上のかた
- 持ち物 プールで運動できる服装
- 申込締切 参加する日の午前中まで
- その他 委託事業のためプール使用料、参加料はかかりません。

■申込・問合先
(☎62-5808)

おくにYui
スポーツクラブ

～いちにち昆虫博士～

- 日 時 7月22日(土) 9:00～15:30
- 場 所 叶水ビオトープ
- 集 合 水源の郷交流館ほたる
- 定 員 20名
- 参加費 300円(保険代等込)
- 持ち物 飲み物、お弁当、網、虫かごなど
- 申込締切 7月14日(金)
- 申込・問合先 NPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊
(☎62-5955) へ

パークゴルフ体験会

初心者、老人クラブ未加入者大歓迎！参加賞等あり！

- 日 時 7月20日(木) 8:50～12:00
- 場 所 水源の郷交流広場パークゴルフ場
- 対 象 概ね60歳以上のかた(定員50人)
- 参加費 500円
- 持ち物 帽子、飲み物、タオルなど
- 申込締切 7月14日(金)
- 申込・問合先 小国町老人クラブ連合会(社会福祉協議会)(☎62-2825) へ

シリーズ

地域のブランド化とは

その③

黒沢峠敷石道

越後街道は、大永元年（1521）に伊達植宗が大里峠を開削してから、明治17年（1884）の小国新道が開通するまでの約370年、置賜地方と新潟県下越地方を結ぶ道として重要な役割を果たしてきました。

街道にある十三の峠は、街道としての役目を終えた後、



昭和55年当時は藪に覆われていた

人の手が入らなくなったことで、峠道が草木に覆われてしまいました。黒沢峠もそのひとつでしたが、昭和55年6月に黒沢集落全戸（21戸）によって、黒沢峠の敷石を長く保存し、後世に伝承することを目的に「黒沢峠敷石道保存会」が発足したのです。

保存会では、峠道の草木の



昭和55年当時敷石を掘り起こした黒沢住民

刈り払いや、敷石の掘り起こしを延べ2千人のボランティアの協力と、5年の歳月をかけて実施し、敷石道をよみがえらせました。また、毎年10月末に「黒沢峠まつり」を開催し、昨年で30回を数え、多くの人に敷石道を散策してもらい、往時を偲んでもらいながら、黒沢峠が果たしてきた役割の重要性を伝えていきます。

敷石道の復元は、先人たちが苦勞して敷き詰めたこと。歩きやすくするための知恵だったこと。そして、美しい風景が広がっていたこと。これを伝えるために多様な力を得て取り組んできたものです。これが昨年、「未来に伝える山形の宝」に選ばれるなど、その評価は高く、「小国ブランド」と言えるでしょう。



敷石が復元された現在の黒沢峠